

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり2.00人と、前週と比べてやや増加しました。今年は、例年より早く流行が始まっています。

生後数カ月までの乳児がRSウイルスに初感染した場合は、重症化するリスクが高いため、特に感染を避けるための注意が必要です。

咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃや手すりなどはこまめに消毒するなど、感染予防対策を心がけましょう。

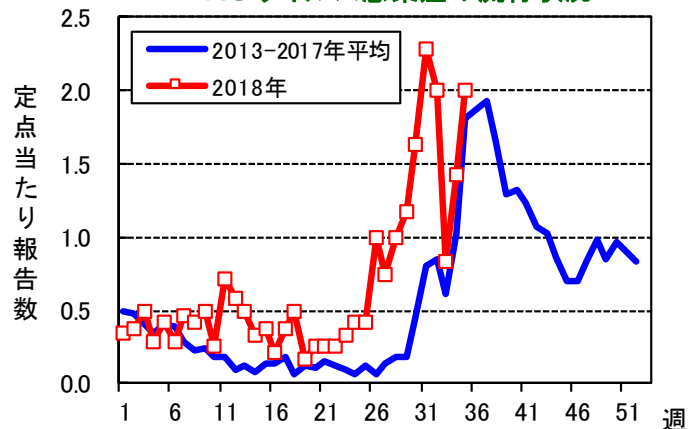
2. 日本紅斑熱

1件の報告があり、今年の累計は4件となりました。

3. 風しん

1件の報告があり、今年の累計は5件となりました。(次頁参照)

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.11		小児科	流行性耳下腺炎	4	0.17	0.46	
	咽頭結膜熱	10	0.42	0.61		小児科	RSウイルス感染症	48	2.00	1.81	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	1.92	1.10		眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.05	
	感染性胃腸炎	111	4.63	3.99		眼科	流行性角結膜炎	18	2.25	1.13	
	水痘	7	0.29	0.39		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	35	1.46	2.02		基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.17	
	伝染性紅斑	2	0.08	0.18		基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.20	
	突発性発しん	16	0.67	0.44		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	16	0.67	0.93		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	93	男性(80歳代)
4	デング熱	1	2	男性(20歳代)・市外・推定感染地域: 国外
4	日本紅斑熱	1	4	男性(40歳代)
5	アメーバ赤痢	1	7	男性(30歳代)
5	梅毒	3	78	女性(20歳代)・1人、男性(50歳代)・2人
5	百日咳	3	38	女性(10歳代)、男性(20歳代)、女性(40歳代)
5	風しん	1	5	男性(50歳代)・市外

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 (ロタ ウイルス)
報告数	広島市	第31週	21	16	52	77	3	41	1	10	28	1	55	-	7	-	1	1	-	-
		第32週	19	8	43	57	5	35	1	8	21	6	44	-	10	-	-	2	-	-
		第33週	1	4	32	58	6	21	-	5	11	3	20	1	11	-	-	1	-	1
		第34週	1	5	45	90	3	31	2	8	18	1	34	-	13	-	-	1	-	-
		第35週	-	10	46	111	7	35	2	16	16	4	48	1	18	-	-	1	-	1
定点 当たり	広島市	第31週	0.57	0.67	2.17	3.21	0.13	1.71	0.04	0.42	1.17	0.04	2.29	-	0.88	-	0.14	0.14	-	-
		第32週	0.54	0.36	1.95	2.59	0.23	1.59	0.05	0.36	0.95	0.27	2.00	-	1.25	-	-	0.29	-	-
		第33週	0.03	0.17	1.33	2.42	0.25	0.88	-	0.21	0.46	0.13	0.83	0.13	1.38	-	-	0.14	-	0.14
		第34週	0.03	0.21	1.88	3.75	0.13	1.29	0.08	0.33	0.75	0.04	1.42	-	1.63	-	-	0.14	-	-
		第35週	-	0.42	1.92	4.63	0.29	1.46	0.08	0.67	0.67	0.17	2.00	0.13	2.25	-	-	0.14	-	0.14
	全国	第33週	0.04	0.32	0.83	2.50	0.20	1.00	0.19	0.34	1.48	0.12	1.34	-	0.83	0.03	0.04	0.27	-	0.01
		第34週	0.03	0.33	1.11	3.26	0.23	0.99	0.32	0.45	1.57	0.14	1.34	0.01	1.10	0.01	0.05	0.21	0.01	0.01

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の疾患	発熱(38.7)	0	女	2018/07/23	咽頭拭い液	エコーウイルス11型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★風しんの予防について

現在、首都圏を中心に風しん患者の報告数が急増しています。患者の多くは30代から50代の男性で、この年代の男性においては、風しんの抗体価が低い方が2割程度存在していることが分かっています。

風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。感染すると約2～3週間後に発熱や発しん、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児に感染し、赤ちゃんが難聴、白内障、先天性心疾患を特徴とする先天性風しん症候群を持って生まれる可能性があるため、妊婦や周囲の方は、特に注意が必要です。

風しんの予防には予防接種が最も効果的です。定期接種対象者(1期:1歳児、2期:小学校入学前1年間の幼児)は無料で受けられますので、早めに接種しましょう。また、妊婦を守る観点から、過去に風しんにかかったことがある、予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認できている方以外の方は、予防接種を受けましょう。なお、妊娠を希望される女性の場合、1か月間避妊した後に接種し、接種後2か月間は妊娠を避けるなどの注意が必要であることから、接種にあたっては、医療機関によくご相談ください。

【参考】

- ・首都圏における風疹急増に関する緊急情報(2018年)(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>
- ・風しんについて(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/
- ・風しんに要注意!(健康推進課)
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1338441470548/index.html>
- ・広島市では無料の風しん抗体検査を行っています。【先天性風しん症候群を防ぐために!】(健康推進課)
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1395648504256/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第35週(8月27日～9月2日)